

(参考様式6)

農山漁村振興交付金（農山漁村活性化整備対策）

事業活用活性化計画目標評価報告書

平成30年 7月10日作成

活性化計画名	中之条地区活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
群馬県（代表） 中之条町	100005 104213	1	平成25年度～ 平成29年度	平成25年度～ 平成29年度
活性化計画の区域				
群馬県中之条町（中之条地区）				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率(%) B/A	備考
自然環境の保全・再生に向けた取り組みの増加	26回	23回	88.5	

(コメント)

本事業により自然環境の保全に向けた取組の場として、環境学習会を開催することができた。目標値には達しなかったが23回の参加延べ人数は426人（町内在住者85人、町内在住者以外341人）であり、再生の可能エネルギーの利用によるイメージアップや環境学習の機会の提供に一定の効果があったといえる。今後も継続して達成率の向上を図りたい。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
自然・資源活用施設	小水力発電施設 一式			中之条町
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
中之条町	平成25年度	平成29年度	H29.07.20	
事業の効果				
<p>中之条町では本事業と並行して花のまちづくり事業を実施し、交流人口の増加の促進を基本に持続可能な農業振興や地域振興を図ることを目標にしている。本事業は事業活用活性化計画にて電力需要施設に設定した農業関連施設の維持管理費の軽減を図り、温室効果ガスの排出量削減等環境に優しい農業農村づくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none">・水利権者側との協議を重ねたことにより、発電への関心と生産者側の販路拡充としての交流人口の増加への取り組みに理解をいただけるようになってきた。生産者側からの用水利用への調整が徐々にではあるが始まってきた。（発電水量の確保）・人口減少・高齢化に伴う農地の休耕は進んでいるが、本事業設置地区においては現状の耕				

作が営まれている。交流人口の増加に伴う農産物等の販売促進も僅かではあるが増加傾向にある。(電力需要施設等への出品数の増加)

- ・ 移住・定住者へのアプローチとして、農業従事への効果を期待する。現状農地の維持、休耕地の再活用等、生活の拠点確保と合わせ、内需消費から外需消費への方向転換による域内需要を活性化させる。本事業は交流人口の増加が主軸であり、町の進める施策の基本を担う事業である。(生活拠点の安定化による農業基盤の安定化)

3 総合評価

(コメント)

整備事業が終了し、小水力発電所として供用開始1年となる。発電は全般的に順調であるが用水路維持工事や、用水路の雑草管理や落ち葉等による発電の副産物処理に非常に時間を要している。また、冬季の積雪や降雨が少なかったことを受け、4月~7月間は発電水量の確保が非常に厳しく夜間調整を実施させていただきながら、可能な限りの発電水量の確保に努めた。

事業活用活性化計画に基づく目標については、100%の達成ではないが概ね効果があったといえる。目標達成に向けた取り組みを継続して実施していく。

水利権者側(土地改良区組合員)との調整により発電水量の確保ができたことや農産物の販売促進が増加傾向にあること等、交流人口の増加への取り組みの効果が浸透してきていると思われる。減退する農業地域の整備基盤として安定した発電事業を図っていく。

新たな取り組みとして、移住・定住事業に着手しており、平成29年度実績で3組4名の新規就労や現在2名の研修者の受け入れ実績がある。(いずれも花木栽培)本制度拡充の鍵は、生活の拠点、この地で生活出来ることが最大のテーマとなってくる。内需は勿論であるが外需への取り組み、至っては交流人口の増加や地域農産物のブランド化(6次産業化)も今後の大きな課題である。

本事業の実施により高齢化や人口減少に歯止めがかかるわけではないが、複合的な取り組みの一環として本事業等の効果が本町にとって有益な効果をもたらすことを念頭に、継続的な事業推進を図っていく。

4 第三者の意見

(コメント)

なんとなく知っていた知識が、実際に見て、聞くことで多くのことを学ぶことができました。生徒はもちろん、私たちも楽しく勉強（研修）させていただきました。帰りのバスの中においても、水路や山の方を見て川の流れを言い合っていました。

また、用水路の測量を生徒の研究活動の一環として実施しております。損傷箇所が多くなった農業用水路の管理を行う基盤となる水路図の完成を目指して、日々奮闘しております。健全な管理による田園や水路の保全、その用水を利用した小水力発電が運転されている。身近なフィールドで貴重な体験ができることは、自然・環境教育に大変有意義であると思います。

群馬県立吾妻中央高等学校 環境工学科 教諭 松井克彦